

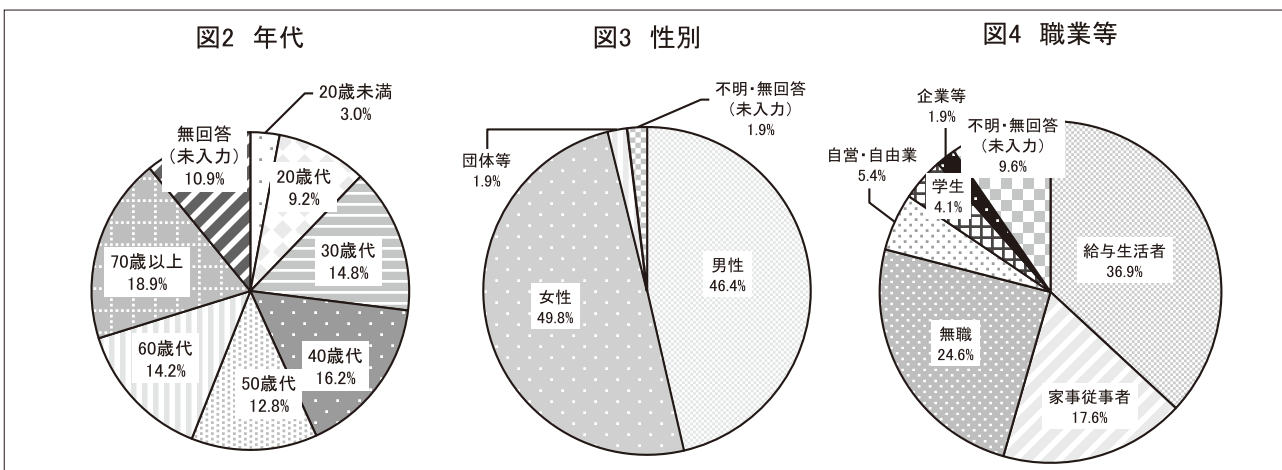
(1) 契約当事者・相談者の属性

契約当事者の年代別、性別、職業別の相談件数は図2、図3、図4、図5のとおりである。

契約当事者の割合を見ると、70歳以上の割合が引き続き増加し18.9%となった。2012年度の60歳代以上の割合は合計で約33%と全体の約3割を占めており、2003年度の60歳代以上の合計（約13%）の約2.5倍になっている（図5）。高齢化の進展に伴い、相談も高齢者に関するものが増加する傾向にあると考えられる。

また、契約した本人から相談をしているのか、別の人が相談をしているのかの内訳を表したものが図6である。2012年度は前年度同様に契約当事者が20歳未満の相談の約7割が契約当事者以外からの相談で、ほとんどは親からの相談である。70歳以上の相談は、約3割が契約当事者以外からの相談で、主に家族の他、包括支援センター等からの相談であった。

図2～4 2012年度の契約当事者の属性（構成比）



(注) 構成比は2012年度の総件数を100として算出した値である。

図5 年度別にみた契約当事者年代別割合

年度	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明
2003	5.9	26.7		25.3		13.9	9.6	6.4
2004	6.4	20.7		25.5		17.2	11.5	6.8
2005	3.9	16.3		19.5	15.0	13.0	12.4	10.7
2006	3.7	15.3		19.7	14.9	14.4	11.0	12.1
2007	3.7	15.4		20.8	16.9	14.0	10.2	10.4
2008	3.1	13.4		19.6	16.6	13.7	11.9	12.2
2009	3.0	12.1		18.5	16.5	13.3	12.7	13.6
2010	3.4	10.6		16.8	16.1	13.2	13.8	15.5
2011	3.4	9.8		15.9	16.3	12.9	14.2	16.8
2012	3.0	9.2		14.8	16.2	12.8	14.2	18.9

構成比(%)

(注) 構成比は各年度の総件数を100として算出した値である。

図6 契約当事者からの相談と別の人からの相談の内訳（2012年度）

